

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
実社会対応プログラム最終評価結果表

課題	人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備
研究テーマ名	多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究
研究代表者	藤原 佳典
所属機関・部局・職	東京都健康長寿医療センター研究所・研究部長
研究成果の総合評点：A	
研究成果の評価に係る所見	
<p>本研究は、試行錯誤の末、「よりあい」「語らいの駅」での多世代交流プログラムを、現場の人の心情に寄り添いながら進めたものである。「お互い様ゲーム」が考案されるなど、具体的な成果を伴う「多世代住民互助モデル」が提言されたことはたかく評価できる。</p> <p>地域資源見える化サイト「ミルモネット」が開発され、平成30年8月末から「第一版ミルモネット」が稼働することになった。中でも「支援提供の行動に至る仮説」「支援依頼発信の行動に至る仮説」のとりまとめは優れている。</p> <p>研究会も発足しており、研究成果のさらなる発信が望まれる。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い